

の株式譲渡手続きが終了した。譲渡金額は1,190億円になる。譲渡により、連結売上高の減少額は約480億円を予想している。

味の素冷凍が餃子売上で東北支援

味の素冷凍食品は10月1日から、昨年に引き続き、「ギョーザ」製品の売上の一部を支援金として、東北地方の農業復興の支援を行っている3団体に寄付する。寄付金は対象商品1袋あたり1円で、2013年1月31日出荷分までが対象となる。

鈴木油脂がシーズニングオイルを増産

鈴木油脂（神奈川県伊勢原市）がシーズニングオイルを増産する。歌川工場（伊勢原市歌川）の隣接地に建設していた歌川第二工場が5月末に完成し、本格的に稼働している。平成18年に歌川工場でシーズニングオイルの生産を開始したが、同工場の生産能力が限界に達しており、新工場の建設に踏み切った。投資金額は約4億円。敷地面積は約1,600㎡。生産能力は、新工場の稼働により、現在の月産約30トンから約100トンに拡大する。なお、第一工場でも既存品の生産を続ける。

鈴木靖夫社長は「当社は大手メーカーが引き受けられない多品種小容量のシーズニングオイルを手掛けており、通常は約30種類を生産している。商品の生産方法や保存方法などで受託先から様々な要望があり、既存のスペースでは対応しきれなくなっていた。鮮度の良い生脂の特徴を生かして付加価値を付けて販売していきたい。早期に月産50トンに引き上げたい」と話している。

販売先は、全国の加工食品メーカー向けがほとんどを占めており、インスタントラーメンやスナック菓子向けの利用が多い。受託生産や共

同開発の形も多いが、自社ブランドではビーフオイルやポークオイルを手掛けている。



森永製菓がアイスを増産

森永製菓はアイスクリーム類を増産する。アイスの製造子会社、森永エンゼルデザートの本社工場に23億円をかけて新生産ラインを導入する。新生産ラインは来年1月に完成、同3月に稼働する予定。新ラインの稼働により、森永製菓グループ全体で生産能力は3～4割高まる。主力商品の「チョコモナカジャンボ」の供給能力を高めるとともに、西日本限定の商品を全国で展開する。

カルビーが中国事業を見直し

カルビーは9月24日、台湾系中国食品大手の頂新グループや伊藤忠商事との合弁で進める中国事業の一部見直しを発表した。天津市で予定していた合弁会社の設立を取りやめ、浙江省杭州市に設立予定の合弁会社の支社として、天津での事業を開始する。華北に比べて市場規模が大きい華東地域での事業に重点を置き、杭州での事業展開を進めていく。杭州の合弁会社は計画通りに10月に設立し、13年1月に生産を開始する。

カルビーグループ、国内に新ライン

カルビーの100%子会社、ジャパンフリトレーは、スナックを専用に生産する古河工場（茨城県古河市）に新ラインを増設した。ソースがけするのに適した丸い形状のポップコーンを製造する。まず、9月10日に「マイクポップコーンキャラメ

ル味」を発売。また、同社は、8月にデュラム小麦を100%使ったスナック「パスティーノ」を発売した。カルビーの広島工場に新設備を導入し、生産している。

九州の製粉会社がミックス粉注力
九州の製粉会社がミックス粉事業を強化する動きが相次いでいる。鳥越製粉は10月から、セブン&アイが運営する通販サイトでパン用ミックス粉「パンdeスマート」を発売した。熊本製粉は約2億円を投じて、ミックス粉に配合する米粉の新工場を建設する。年産300トンの生産能力を持ち、来年3月に稼働する予定。

ホリがおかきの新工場建設

菓子大手のホリ（北海道砂川市）は、好調な需要に対応するため、おかきの新工場を建設する。新工場は本社隣接地に建設予定で、工場用地は約2万㎡。来春に着工し、2013年9月頃に完成する予定だ。投資額は約10～12億円を見込んでいる。新工場の稼働により、生産能力は現状の3倍の年産2,100万袋に拡大する。同社のおかきは、ジャガイモを使った「ジャガイモコロコロ」などが人気になっている。

経産省が「統計の日」で呼びかけ
経産省は「統計の日」(10月18日)を中心に調査票提出促進運動を実施している。同省では、各種統計調査の信頼性を高め早期に公表できるよう、調査票を所定の期日までに提出しよう事業者等に要請していく。

トイレタリー

花王が11月に公開シンポジウム
花王は11月17日に東京ミッドタウンで公開シンポジウム「みらいにつなぐライフスタイル」を開催する。